

指定校番号	29010	学級活動		児童会	○	クラブ活動		学校行事		小学校用
-------	-------	------	--	-----	---	-------	--	------	--	------

平成 29 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	府中町立府中南小学校	校長	竹下 比登美	生徒指導主事	高田 博之
-----	------------	----	--------	--------	-------

取組事例名 『主体性を育む児童会活動 ～ 府中町一の取組を目指して～』

取組のねらい 『キーワード ～ 府中町一を目指して～』

本年度の児童会のテーマは「主体性を育む児童会活動 ～府中町一を目指して～」とした。本校が本年度育てたい資質・能力である「思考力・判断力・表現力」「アイデンティティ」を児童自身が身に付けていくための方策を児童会執行部が考える事で、自己有用感や自己肯定感の向上を図った。

身に付させたい資質・能力

本校の育てたい資質・能力は「思考力・判断力・表現力」「アイデンティティ」である。その資質・能力を身に付けた具体的な児童の姿を、児童会活動の側面から学校生活を充実させ、より主体的なものにすることで、身に付けさせたい資質・能力の育成につながると考えた。

資質・能力のうち特に「アイデンティティ」の育成が直結すると考え、本年度は、「アイデンティティ」の育成を意識した取組を行っている。「アイデンティティ」には、「生き方」、「生命尊重」、「他者とのかかわり」の3つの観点があり、その中で、「生き方」、「他者とのかかわり」の観点到に絞り取り組んでいった。本校が定めるレベル表の「生き方レベル3」では、次のような具体の姿を設定している。

- ①より高い目標をたて、希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜く。
- ②社会生活にはいろいろな役割があることやその大切さがわかり、自分らしい生き方や憧れる生き方について考える。
- ③いろいろな職業や生き方があることを知り、将来の夢や希望をもつ。

「他者とのかかわり レベル3」では、次の2点を設定している。

- ①社会とのかかわりから自分の良さや成長を自覚するとともに、友達のよさや成長を認め励まし合う。
- ②日々の生活は、家庭や地域、社会はもちろんのこと、先人の努力や知恵によって支えられてきたことに感謝し、それらを受け継いで共に生きていこうとする自覚をもつ。

「生き方」については、主に委員会活動で、「他者とのかかわり」については、主に異学年交流で資質・能力の育成を図っていく。

取組の具体的内容 『キーワード ～ 4つの府中町一～』

児童会執行部の児童が中心となって行った「4つの府中町一を目指した」取組

1 「挨拶を府中町一」では、全校朝会やポスターで取組を呼びかけ、児童の関心・意欲を高めている。あいさつ運動では、挨拶ができている子にはキラキラカードを手渡し、自己有用感や自己肯定感の向上を図っている。



2 「掃除を府中町一」では、異学年で掃除を行うことで、高学年が低学年の手本となり、関わり合うことで互いを高めることができています。また、児童玄関にゴミ箱を設置し、ゴミをよく拾った学年を表彰している。

3 発表を府中町一 では、月に1回、五七五の俳句の募集を行い紹介したり、発表週間を設定したりして発表の大切さを全校に伝えている。

4 ハート府中町一では、毎月児童の投票による「ふわっと言葉チャンピオン」を決定し表彰することで児童の取組を評価している。また、学期末にアンケートを実施し取組の指標としている。

取組の課題・創意工夫 『 キーワード ～ 継続・発展 ～ 』

○取組の課題

新たな学校文化の誕生を、継続・発展させていくためのシステムの検討・制作が必要となる。（誰がなくても、誰が見ても分かる・できる各位委員会のレジュメ）また、執行部の活動は充実したが、振り返りが不十分な面があった。活動後の振り返りを充実させ、自分たちの何がよかったのか、何を改善しなければならないかを検討するとともに、活動をより質の高いものにするために活動の精選と、次年度へ引き継ぎが必要である。

○創意工夫「キラキラカード」

キラキラカードは、昨年度から学校長の発案で始まり、児童の頑張りを視覚的に評価するものとなっている。執行部が考えた府中町一への取組にもつながっており、カードが5枚たまると「キラキラバッジ」がもらえ、児童の意欲にもつながっている。（毎月一回のキラキラバッジ授与式を実行）また、キラキラカードは担任推薦もあり、クラス内で頑張っている児童にもいきわたる仕組みとなっている。今ではこのキラキラカードを各委員会も活用するようになってきおり、児童同士が肯定的な評価を行うための有効なツールにもなっている。1年生はもちろん6年生も、もらった時は笑顔で嬉しそうにしている。

取組の成果（効果）『 キーワード ～ 関わり合いキラキラ ～ 』

児童会執行部が、全校集会で府中一の4つの取組を伝えることで、全校児童が資質・能力を共有することができ、児童がこの取組を意識して日々の学校生活に臨むことができた。また、昨年度の課題であった、5年生への委員会の紹介・引継ぎも児童発信で行うことができてきた。普段の生活の中で異学年同士の関わりが増え、休憩時間には、6年生と一緒に遊んでいる1年生や2年生の姿をよく目にするようになった。また、委員会総会を立ち上げ、児童会だよりの発行を行った。児童だけでなく、職員の委員会活動をはじめとする児童会活動への取組の意識が高まった。全職員が委員会に携わることで、児童が考えた活動を具体化し、栽培委員会は水やりの必要のない雨の日には草取りを行うなど、今までになかった新たな活動が生まれた。

2学期終了時の生活向上アンケートの結果では、「学校、家庭、地域で自分からあいさつしている」の肯定的評価は87.2%であった。「人にふわっと言葉で話している」の項目では、肯定的評価は85%であった。児童会執行部によるキラキラカードの配布やバッジの表彰により、府中一を目指す児童の意識は高まってきた。「他学年と積極的に関わっている」に対する肯定的回答は77.8%であった。ペア学年が日常的に触れあう教室配置やペアの清掃活動が功を奏したと考える。今後も児童会執行部主催の縦割り遊びを企画するなど取組を充実させていく。



今後の展開『 キーワード ～ 6+3=9 への連携 ～ 』

子どもの主体性を更に育むために、中学校との連携を強化することを考えている。小学校の児童会活動と中学校の生徒会活動とのつながりを深め、小学校の各児童会の委員長の活躍の場を増やすことで、1つ1つの委員会の活動内容の充実や、児童の意識・意欲がさらに高まると考えている。

他校へのアドバイス『 キーワード ～ 児童と教員のコラボ ～ 』

委員会の指導体制を、本年度から全教員で指導をすることにした。委員会の数は増やさず委員会担当の教員数を増やすことで、より充実した指導ができるようになり、児童の自発的な活動も増やすことができた。